

平成28年4月25日、政策秘書課職員との話です。

「人間の目の特徴は何か？」

先日、お会いした医学博士から、興味深い質問を受けました。

他の霊長類にない人間の目の特徴は、白目があることだそうです。白目があり、黒目ははっきり強調されると、どの方向を見ているか分かってしまいます。他の動物にとって、どこを見ているか分かることは、他の動物から襲われやすくなり、大変危険なことです。

「目には口ほどにものを言う」という言葉があるように、人間は、白目があることで目に表情が生まれ、相手に気持ちを伝えたり、合図を送ったりすることができます。人間にとっては、危険を防ぐことよりも、コミュニケーションを上手くすることの方がもっと重要だったのです。

また、その博士によると、人類は、200万年前頃、道具を使うようになって、頭が急に大きくなり、直立歩行になりました。そのため、骨盤が狭くなり、赤ちゃんの頭が小さい、大変未熟な状態で出産してしまわないと、母親が危険なことになります。だから、あらゆる動物の中で、人間の子育てが、1番手間と時間がかかるのだそうです。そして驚いたことに、赤ちゃんは、お母さんのお腹の中で笑う練習をしているのだそうです。

この話を伺って、人間の進化の過程から見ても、相手の目を見て、笑顔で対応することがコミュニケーションの基本なのだと改めて感じました。

平均寿命が延びるに従い、ケア(お世話)が必要な人も増えてきました。ケアが必要になったとき、目も合さず、笑顔もなく、文句を言ってばかりでは、ケアする側からすると腹が立つことでしょう。

近頃は、人の目を見て話ができない人が増えていると聞きます。これからの時代、ますます、人同士が顔を突き合わせて、コミュニケーションを図ることが必要な時代になっていくと思います。地域に暮らす多様な人同士が付き合えば、わずらわしいことも多いでしょう。しかし、人間は一人では暮らせません。わずらわしいことがあるからこそ、地域で絆が生まれ、多様な人が交わることで、それぞれの人に役割、たつせが生まれるのです。

「まちづくり まずは笑顔で こんにちは」

まずは、家族同士で、そして一歩踏み出して、ご近所で「おはようございます」のあいさつから始めましょう。

～市長の話を聞いて～

昔、老人福祉施設にイベントで伺ったとき、出し物を見て、笑顔の人と、病気による症状の影響で仕方のないのかもしれませんが、無表情な人がいらっしゃいました。

出し物をする側の私たちは、どうしても笑顔の人の周りに集まってしまい、無表情の人はますます楽しめない状態になってしまいました。その姿を見たとき、私は、「将来は、何でも笑顔で楽しめるおばあちゃんになりたい」と思ったものです。

この話を市長にしたとき、心理学者ウィリアム・ジェームズの言葉を教えてもらいました。

心が変われば 行動が変わる

行動が変われば 習慣が変わる

習慣が変われば 人格が変わる

人格が変われば 運命が変わる

将来、どんなおばあちゃんになるかは、今からの私次第です。加えて市長からは「思ったときにすぐ始めれば、何でも遅すぎることはない」と背中を押してもらいました。

最近、AC（日本広告機構）のCMで、「おおらかな気持ちでいることも、りっぱな公共心です」というスローガンを目にしました。あいさつも、続ければ習慣になります。そして「おおらかな気持ちでいよう」と心が変われば、将来、私は誰にでも声掛けができ、何でも笑顔で楽しめるおばあちゃんになれるかもしれないと思っています。